

令和6年度 館林市立第二小学校 学校評価一覧表① (様式1)

羅 針 盤			方 策	評 価	改 善 策
評価対象	評価項目	具体的数値項目			
Ⅰ 保護者等と連携	1 学校や子どもの様子を保護者に伝え、理解を得ていますか。	1「きめ細かく伝えている」と答える保護者・教職員が90%以上である。	・学校便り、学年・学級通信等を定期的に発行したり、連絡アプリHome & schoolを活用したりする。 ・希望する保護者に対して、日常的な学校公開や、教育相談を行う。 ・Webページを定期的に更新し、学校や児童の様子を伝える。	A	(第1回)これまでの方策を継続する。
	2 保護者は、学校の諸行事に参加していますか。	2「授業参観や学校行事に参加するように努めている」と答える保護者が90%以上である。 「保護者が参加しやすい環境を整えている」と答える教職員が90%以上である。	・授業参観や学校公開、運動会や持久走大会などの学校行事等、児童の活躍する場を積極的に公開する。 ・保護者が、学年・学級の様子を理解したり協力したりしやすいよう、前年度の反省を生かして、行事を工夫する。	A	(第1回)これまでの方策を継続する。
	3 保護者は、学校に連絡や相談がしやすいと思っていますか。	3「相談しやすい」・「意思疎通を積極的に行っている」と答える保護者・教職員が90%以上である。	・連絡帳や電話連絡、家庭訪問等、個別の支援や相談等を適宜行う。 ・夏休みの教育相談を通して、学校や家庭の様子を丁寧に話し合い、協力していく。 ・校内教育相談体制を整備や、スクールカウンセラー等、保護者へ周知し活用を促す。	A	(第1回)家庭教育学級で、SCなどを講師に迎えて、教育相談をできる場を作る。
Ⅱ 確かな学力	4 児童は、授業が分かり、満足感や達成感を味わっていますか。	4「授業がわかる」・「授業が分かっている」と答える児童・保護者・教職員が85%以上である。	・はばたく群馬の指導プランⅡを活用し、授業改善に向けて校内研修を充実させる。 ・一人1台のタブレット端末を生かし、個別最適な学びと協働的な学びを推し進める。 ・教科担当制を行い、専門性を生かした指導の充実を図る。 ・週案を活用し、教材研究に励み、分かる授業を展開する。 ・学力コーディネーターを中心とした、学力向上委員会を活性化させる。 ・週予定表などにより、授業の内容や習熟の実態を保護者へ伝える。 ・児童が自分の学びを振り返り、自分の成長を実感できるよう投げかける。	A	(第1回)これまでの方策を継続する。
	5 児童に、教科等の基礎・基本が確実に身に付いていますか。	5「児童に、教科等の基礎・基本が確実に身に付いている」と答える保護者・教職員が80%以上である。 (単元テスト80%以上)	・ノート指導を充実させ、「優秀ノートコーナー」に掲示する。 ・漢字の練習方法などを見直し、児童の主体性を促すとともに、漢字・計算大会を行事に位置づけて実施する。 ・朝行事や週末に作文や俳句課題を出し、書く力の向上を図る。 ・朝学習や放課後補充を行い、基礎学力の定着を図る。 ・学校支援ボランティアを保護者だけでなく地域へ広げ、体験活動の充実と学力の向上を図る。	A	(第1回)これまでの方策を継続する。
	6 家庭で自主的に学習や読書をする習慣が児童に身に付いていますか。	6「家庭で学年×10分の宿題などの勉強や読書をしている」と答える児童が80%以上である。 「進んで学習や読書をする習慣が身に付いている」と答える保護者・教職員が80%以上である。	・毎日の音読や漢字・計算練習等の宿題を実施するとともに、量より質、反復より内容とする方策を講じる。 ・家庭学習の仕方の指導と、結果を賞賛するとともに、家庭学習の目的や自身の取組を振り返りながら、改善を促す。 ・国語科における読書指導、作文指導の推進を定期的に行う。 ・メディアコントロール週間に家庭学習時間調査を実施し、意識化を図る。 ・「読み聞かせボランティア」による絵本の読み聞かせや、物語の朗読などを行う。	B	(第1回)自主学習の模範ノートをもとに、自主学習を計画したり、内容を選んだりして、意欲的にマネジメントできるよう促す。
Ⅲ 豊かな心	7 さわやかなあいさつ、返事、相手を思いやる言葉遣いができる児童が育っていますか。	7「自分から進んであいさつしたり、元気に返事をしたりしている」と答える児童が90%以上である。 「あいさつ、返事、丁寧な言葉遣いができている」と答える保護者・教職員が90%以上である。	・児童会が中心となる「あいさつ運動」を通して、あいさつについて考える機会をもち、校内でのあいさつは確実にできるよう、積極的に呼びかけを行う。 ・校外でのあいさつは安全教育に努めながら、旗当番や交通指導員、守り隊の方等に進んでできるよう、家庭と連携しながら指導していく。 ・授業での返事や全校朝会等での返事等の指導や、教師によるあいさつを励行する。	B	(第1回)児童会本部による「あいさつパトロール」を継続していく。
	8 いじめのない温かな人間関係が育っていますか。	8「友達にやさしく、みんなに親切にしている」と答える児童が90%以上である。 「友達間で、いじめのない温かい人間関係が育っている」と答える保護者・教職員が90%以上である。	・「学校生活アンケート」や「C&Sアンケート」を活用し、児童の小さな変化も見逃さないよう、日常の観察を行い、毅然とした態度で指導する。 ・児童会を中心に、各委員会においても児童主体の「いじめ防止運動」を展開する。 ・縦割りの異年齢活動を推進し、思いやりの心を育む指導を継続する。 ・意図的に自己有用感を育む場面や環境を設定する。 ・授業や集団活動を通して、「ほめる」「励ます」「認める」などの肯定的な評価を積極的に行う。 ・自他の命を大切にすることを意識した道徳の授業を実践する。	A	(第1回)これまでの方策を継続する。
	9 学校や家庭の決まりを守ろうとする児童が育っていますか。	9「学校や家庭の決まりを守っている」と答える児童が90%以上である。 「学校や家庭の決まりを守って生活できている」・「決まりを守ろうとする児童が育っている」と答える保護者・教職員が90%以上である。	・「二小よい子のせいかつ」を改善・充実し、具体的指導に生かせるようにする。 ・児童会による「今月の生活目標」と関連させた継続した指導と適切な評価を行う。 ・家庭での指導とも合わせ、決まりを守る重要性を粘り強く指導する。	A	(第1回)これまでの方策を継続する。

Ⅳ 健康・体力	10 食育に取り組む児童が育っていますか。	10「朝食や夕食を毎日きちんと食べている」と答える児童・保護者が90%以上である。 「朝食や夕食を毎日きちんと食べている児童が育っている」と答える教職員が90%以上である。	・「給食便り」等による保護者への啓発、及び個に応じた指導や援助を行う。 ・朝食の大切さについて、通信等で児童に繰り返し伝えていく。 ・給食センターの栄養士による学校訪問や、栄養バランスの給食放送を通して、食の重要性を伝えていく。	A	(第1回)これまでの方策を継続する。
	11 睡眠の意味と役割を理解し、規則正しい生活をしている児童が育っていますか。	11「早寝早起きしている」と答える児童・保護者が80%以上である。 「早寝早起きをし、規則正しい生活をしている児童が育っている」と答える教職員が80%以上である。	・家庭の事情を考慮しながら、睡眠の大切さや長時間のスマホやゲームが及ぼす弊害や深刻さ等を、保健便りで保護者に伝え、継続してはたらきかけていく。 ・生活習慣を見直す「元気アップカード」への取り組みを通して、「早寝早起き」に関する啓発活動を行う。 ・学校保健委員会の計画的な開催と、機能を充実させる。 ・保健の授業において、規則正しい生活について触れ、睡眠の大切さについて繰り返し学習する。	A	(第1回)これまでの方策を継続する。
	12 日常的に運動に取り組む児童が育っていますか。	12「週3日以上体を動かして遊んだり、運動したりしている」と答える児童・保護者が80%以上である。 「日常的に運動に取り組む児童が育っている」と答える教職員が80%以上である。	・体育的行事(運動会・持久走大会・駅伝大会・陸上記録会・校内なわとび大会等)や、体力作りの活動等を考え、日常的に進んで運動できるようにする。 ・生活習慣を見直す「元気アップカード」への取り組みを通して、「運動」に関する啓発活動を行う。 ・学級レク等の外遊びの場を設定し、時間を確保する。	A	(第1回)これまでの方策を継続する。
Ⅴ 安全確保・施設設備	13 学校は安全管理に努めていますか。	13「安全管理に努めている」と答える保護者・教職員が90%以上である。	・火災・地震・不審者・水害等、災害時の避難を想定した訓練を学期1回以上実施し、「緊急対応マニュアル」をもとに対応していく。 ・大地震発生時に伴う引き渡し訓練を、年1回行う。 ・下校時における安全対策と通学路の安全点検のため、一斉下校を学期に1回以上行う。 ・各家庭に名札を発行し、来校するときには必ず提示してもらう。	A	(第1回)これまでの方策を継続する。
	14 学校・家庭・地域が連携して安全対策に努めていますか。	14「道路での正しい歩き方や自転車の乗り方ができている」と答える児童・保護者・教職員が90%以上である。	・一斉下校による通学路の安全確認と、歩行の仕方の指導を行う。 ・1年生の道路の渡り方指導、3年生の自転車教室など、正しい歩行や自転車の乗り方の指導を行い、飛び出しの禁止とヘルメット着用を継続して指導する。 ・保護者や地域との情報交換により危険箇所を把握し、情報があつた時には速やかに指導を行う。 ・「子ども守り隊」の活動による下校時の安全確保や、「こども安全協力の家」との連携の強化する。 ・危険情報があつた時には、速やかに指導を行い、不審者情報について緊急性がある場合は、連絡アプリを活用して、全家庭に情報を提供する。	A	(第1回)これまでの方策を継続する。
Ⅵ 進路・生き方	15 児童は、自分の将来の夢や希望をもっていますか。	15「将来の夢や希望をもってがんばっている」・「将来の夢や希望について親子で話題にしている」と答える児童・保護者が90%以上である。 「児童に将来の夢や希望をもたせるようにしている」と答える教職員が90%以上である。	・「デジタルキャリアパスポート」を活用し、親子で将来の夢や希望について話し合える機会を持てるようにする。 ・キャリア教育年間指導計画を意識するとともに、児童が自分のよさについて考えたり、意識したりできる機会を、日々の指導や総合的な学習の時間や学級活動・道徳の授業の中に位置づける。 ・学ぶこと、働くことの意義や将来に対する夢や希望について話し合う機会を、日々の指導に取り入れていく。	A	(第1回)従来の夢カードを活用し、家庭と連携して、親子で将来のことについて話し合えるようにしていく。
Ⅶ 組織運営	16 学校の教育目標の達成に向け、管理職・教職員が一体となって努力していますか。	16「学校経営方針を受けて、創意工夫し指導するとともに、自己申告書の達成に向けて日々の実践に励んでいる」と答える教職員が90%以上である。	・年度当初、学校長が示した学校経営方針に従い、職員会議等を通じて呼びかけ、実践していく。 ・年間指導計画に基づく授業を週案等に記録するとともに、各時間や1週間の自己評価を行い、評価と指導の一体化が図れるようにする。 ・自己申告書の具現化と、継続的な実践と反省・改善を行う。 ・「コミュニティースクール」を中心に、地域の人的・物的資源を年計や教育課程に取り入れ、今まで以上に学校、保護者、地域が手を携えて、子どもたちを見守っていく。	A	(第1回)自己申告書は職員個人が意識できている。全職員が同じ方向を向いて職務を遂行できるよう適宜経営方針などを確認する時間を設けていく。
	17 気軽に相談し合える職場の人間関係ができていますか。	17「職場の人間関係ができている」と答える教職員が90%以上である。	・あいさつだけでなく、お互いに声をかけ、職員間の輪をつくる。 ・長所も短所もお互いに受け入れ、存在を認めて生き生きと楽しくかかわれるようにする。	A	(第1回)・学年間の垣根を越えてお互い助け合えるようになってきた。 ・単学級の学年や養護や事務など複数の職員も悩みを抱えないよう、お互い協力できる雰囲気を作っていく。